

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項目	太陽光発電システム設置補助件数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	太陽光発電システム設置補助事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	設備設置者	手段 (どのように)	システム等の設置(導入)費用の一部を補助する
	目的 (どうしたいのか)	太陽光発電システム等を普及させることで、節電や地球温暖化対策への町民の意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	10	基/年
令和3年度実績	太陽光発電設備: 予算10件、実績5件 蓄電池: 予算3件、実績5件 HEMS: 予算3件、実績4件	
令和4年度実績	太陽光発電設備: 予算10件、実績5件 蓄電池: 予算5件、実績6件 HEMS: 予算5件、実績1件	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S: これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C: これまでの実績より後退
		A: これまでの実績に上乘せ	D: これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B: これまでの実績を維持	
コメント			
平成21年度より補助制度を開始し、令和4年度末までに累計178件の補助を実施した。 平成29年度に策定した「中井町地球温暖化対策実行計画」にて、目標値を300件と定めており、今後も事業を継続していく。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
太陽光発電の固定価格での買取期間が10年間と定められており、買取期間満了時期に近い人の蓄電池購入なども増えている。 令和4年度より蓄電池及びHEMSへの補助件数も5件に増やし、創エネ、蓄エネ、省エネの一体とした普及を図っている。 現在、半導体不足やコロナウイルスの影響により、システム等の生産が遅延しているため設置件数への影響が懸念される。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・技術の進歩や省エネルギーの普及により、太陽光発電システムの効率やコストパフォーマンスが向上すること、また、地域の持続可能な発展と環境保護の両面に貢献するものとして、継続して推進されるべきであるが、買い取り価格の激減により、メリットが少なくなっていることや光熱水費の高騰、家庭用蓄電池の価格が思うように下がっていない現状もある。</p> <p>・今後は、年間目標数、計画目標値の見直しも視野に入れ継続実施とする。</p>	

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項目	エコドライブ啓発活動	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	総務課
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	エコドライブ推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民・事業者	手段 (どのように)	エコドライブの啓発
	目的 (どうしたいのか)	エコドライブを推進することで車両から排出されるCO2を削減し、地球温暖化対策を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	1	回/年
令和3年度実績	公用車にエコドライブ推進の啓発テープを貼って周知を図っている。	
令和4年度実績	公用車にエコドライブ推進の啓発テープを貼って周知を図っている。	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
		コメント	
		引き続き公用車等を利用して周知を行っていく。	
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
環境展などのイベントでテーマとして取り上げる等の啓発を図る必要がある。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・常に啓発することが意識の変化につながることもあることから、イベント会場などの集客が期待できる場所でのPR活動など啓発活動の範囲を広げるなど、より多くの人々にエコドライブの重要性等を伝える必要があることから継続実施とする。</p>	

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項 目	環境家計簿参加者数	担 当 課 名	環境上下水道課
		関 係 課 名	
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	環境家計簿推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	環境家計簿を普及させる
	目的 (どうしたいのか)	家庭において環境家計簿を普及させることで、町民の地球温暖化及び環境保全への意識の向上を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。			
目 標	10	人/年	
令和3年度実績	太陽光発電システム等設置費補助金受給者 5名 住宅用蓄電池設置費補助金受給者 5名 HEMS設置補助金受給者 4名		
令和4年度実績	太陽光発電システム等設置費補助金受給者 5名 住宅用蓄電池設置費補助金受給者 6名 HEMS設置補助金受給者 1名		

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
太陽光発電システム設置費補助金、住宅用蓄電池設置費補助金及びHEMS設置補助金の申請要件として、システム導入から1年間の環境家計簿の提出を義務付けており、実績値は補助金受給者となっている。受給者1人で複数の補助金を受けている者もいるため、令和4年度は11件となっている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
エネルギー価格が高騰するなか、経済面での利点も広報し、太陽光発電システム等設置者以外へも、広報紙やホームページ等を活用しての普及啓発を図り、省エネ等環境について考えるきっかけの一助としたい。 これまでに蓄積されたデータについては、分析・検証し、他の事業に活用することも検討していく必要がある。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ ー 1 拡充すべき事業である ├ ー 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ ー 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・補助金受給者の義務として取り組み、少しでも意識変革があることを期待し、また、経済的利点や省エネに関する広報を強化し、普及啓発を行う必要がある。</p> <p>・今後は、補助金受給者以外にも普及啓発を行い、データを蓄積し分析・検証するなど他の事業に活用することも視野に入れ継続実施とする。</p>	

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項目	温室効果ガス排出量の削減量	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	総務課
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	中井町地球温暖化対策推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所、行政	手段 (どのように)	それぞれが主体的に地球温暖化防止に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	温室効果ガス排出量を削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	26	%	2030年度で2013年度比
令和3年度実績	公共施設及び公用車の使用による二酸化炭素排出量 1,075,600kg/Co ₂ /年 令和2年度:前年度比 -28.53% 平成25年度比 -16.81%		
令和4年度実績	公共施設及び公用車の使用による二酸化炭素排出量 1,263,223kg/Co ₂ /年 令和2年度:前年度比 +17.44% 平成25年度比 -2.3%		

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
町の事務事業に伴って排出される二酸化炭素排出量については、電気の使用によるものが多く、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言等により学校施設や水道施設の電気使用量が下がった影響と思われる。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
現在把握できているものが公共施設のみであるため、町内全体へ範囲を広げるべきであるが、把握の方法が課題である。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・排出量の把握範囲を町全体に広げ、より具体的なデータを得ることが重要であり、さらに、削減策の効果的な実施と監視を行い、目標達成に向けた取り組みを加速させる必要がある。</p> <p>・今後は、データ収集活動のほか、他の活動計画との融合も視野に入れ、継続実施とする。</p>	

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項目	食品ロス対策	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	教育課
環境像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事業名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	それぞれが主体的に食品ロス対策に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	食品ロスを削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	食品ロス削減のための啓発
令和3年度実績	境地区と中村地区の2地区において、家庭形可燃ごみのサンプルを採取し、調査を行ったところ、全体での食ロスの割合は14.1%であった。
令和4年度実績	宮上地区と北窪地区の2地区において、家庭形可燃ごみのサンプルを採取し、調査を行ったところ、全体での食ロスの割合は13.1%であった。 環境展の中で、食ロス調査結果のポスターを作成し啓発を行った。 学校給食残渣を飼料として養鶏場は無償譲渡することで、ごみの減量化を図っている。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
昨年度より引き続き松田町と大井町の3町で食ロス実態調査を行った。 データを蓄積していくために継続して調査を行うことが重要である。 学校給食残渣を飼料として養鶏場は無償譲渡することで、ごみの減量化を図っている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
調査結果を広く周知して食ロス削減の啓発につなげることが重要である。 ごみの分別の徹底についても周知を行う必要がある。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├─ 1 拡充すべき事業である ├─ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └─ 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・経年変化を追うことは重要であり、地区を順に調べることで科学的な検証も可能と思われる。また、調査結果の広報を強化し、町民の意識を喚起することで食品ロス削減を推進し、ごみの分別の徹底にも取り組み、リサイクルへの参加を促すことで、廃棄物の削減にも努める。 ・引き続き、食ロス削減とリサイクルによる資源の有効活用を推進し、限りある資源を大切にす循環型社会の実現を目指し、継続実施とする。

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項 目	事業系ごみ対策	担 当 課 名	環境上下水道課
		関 係 課 名	教育課
環 境 像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事 業 名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	事業所	手段 (どのように)	ごみ排出状況の確認及び減量化の啓発
	目的 (どうしたいのか)	事業系ごみの減量		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目 標	排出状況の確認、減量化・資源化の啓発
令和3年度実績	未実施
令和4年度実績	一般廃棄物収集運搬許可業者より収集を行っている事業者の収集量の報告を依頼した。 町内小中学校では、ペットボトルキャップ回収、インクカートリッジ回収、書道紙リサイクルプロジェクト、給食の牛乳パック回収など、ごみの減量化・分別化やリサイクルの推進に取り組んでいる。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	A	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
		コ メ ン ト	
各事業所ごみの排出量を把握するため、収集業者に報告を令和4年度より依頼し、データ収集を開始した。 内小中学校では、ペットボトルキャップ回収、インクカートリッジ回収、書道紙リサイクルプロジェクト、給食の牛乳パック回収など、ごみの減量化・分別化やリサイクルの推進に取り組んだ。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
引き続き、事業系廃棄物の排出量の把握に努めていく。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ ー 1 拡充すべき事業である ├ ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ ー 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・データ収集は、よい方向性であり大きく評価する。</p> <p>・今後は、データ収集の精度向上や啓発活動の強化、ごみの減量化とリサイクルの意識を高め、廃棄物の排出量削減と資源化を促進し、持続可能な社会への貢献を目指す。</p> <p>・事業所においては、ごみの減量化について一般家庭以上に取り組んでいると思われるが、ごく小規模の事業所に関しては、従業員が各家庭に持ち帰り処分している現状もあり、今後の活動のあり方、捉え方も視野に入れ、継続実施とする。</p>	

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項 目	不法投案件数、量	担 当 課 名	環境上下水道課
		関 係 課 名	
環 境 像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事 業 名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内全域	手段 (どのように)	パトロールや監視カメラの設置、不法投棄物の早期回収により不法投棄されない環境づくり
	目的 (どうしたいのか)	不法投棄ゼロ		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	不法投棄ゼロ
令和3年度実績	月に6回不法投棄のパトロールを行っている。不法投棄の回収量は、2,430kg
令和4年度実績	シルバー人材センターに委託をして月に6回不法投棄のパトロールを行っている。不法投棄の回収量は、2,870kg

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
シルバー人材センターへ委託しての不法投棄パトロールを継続している。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
引き続き委託による不法投棄パトロールを継続する。また、職員による不法投棄・ごみステーションの不適正利用のパトロールの実施を検討する。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・毎年、収集数が増えているのは気になるが、パトロールを増やすのも限界があるが、より広域な監視カバレッジを確保し、不法投棄の早期回収、不法投棄の発生を抑制することが重要であることから、継続実施とする。</p> <p>・啓発活動を通じ、地域全体の環境意識を高める取組も行っていくべき、また、パトロールの時間帯も検討されたい。</p>	

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項 目	生態系調査実施	担 当 課 名	環境上下水道課
		関 係 課 名	
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	生態系調査実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	動植物	手段 (どのように)	定期的な調査の実施
	目的 (どうしたいのか)	調査結果を、町の資源として環境学習や観光等に活用するとともに、生態系保全の仕組みを構築する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目 標	定期的な調査、生態系保全の仕組みづくり
令和3年度実績	副読本を300冊増刷し、こども園や子育て支援センター、木の花保育園へ配布した。 一般向けには、令和3年度は4冊を販売した。
令和4年度実績	未実施

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	D	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
本年度は副読本の販売がなかった。 啓発を図るためにも副読本は活用していく必要がある。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
平成23年度から28年度で町内全域の調査を行っているが、変化を把握するためには継続的な調査をする必要がある。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ ー 1 拡充すべき事業である ├ ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ ー 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・中井町の自然をアピールするのであれば、5年に1回は調査を実施しておきたいところである。</p> <p>・生態系調査実施事業は、自然環境保全に向けた重要な取り組みで、調査活動の継続と調査範囲の拡大を行い、データを蓄積することが必要であることから、継続実施とする。</p> <p>・町民の参加や関心を高め、自然との共生を促進し、啓発活動として教育機関や子育て支援施設への配布を促進するなど、より多くの人々に情報を届けるのも必要である。</p> <p>・未活動の年度があるということは、必ずしも毎年報告するに値する計画ではない気がするので、自然観察会開催数(事業No.5-2)との融合が可能かどうか、検討の余地はある。</p>

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項目	森林等保全事業	担当課名	産業振興課
		関係課名	環境上下水道課
環境像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事業名	森林等保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内の森林	手段 (どのように)	国の水源環境譲与税や県の水源環境税の活用、また、日本の竹ファンクラブ等団体の活動により
	目的 (どうしたいのか)	里山の自然環境を地域資源として後世に引き継ぐために、森林の維持保全を継続していく		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	森林譲与税の状況を踏まえた事業計画の作成、事業の実施
令和3年度実績	令和3年度森林環境譲与税譲与金(1,204,000円)→積立 かながわトラストみどり財団による中央公園内の竹林整備を実施 令和3年度水源の森林づくり事業 鴨沢地区 30.99ha
令和4年度実績	令和4年度森林環境譲与税譲与金(1,990,000円)→積立 かながわトラストみどり財団による中央公園内の竹林整備を実施

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
森林環境譲与税は、過年度緊急性の高いナラ枯れの除伐に一部を活用した。今後は公共施設等の整備や改修で木質化を図るなどに活用することで間接的に森林保全を図る方針であるが、年間譲与額が少額であることから事業実施に向け基金に積み立てている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
町内に森林組合や林業事業者がないことから、森林保全は民間の任意団体の活動に頼っている状況で、民有林の維持保全は困難である。また、相続等により町外在住の所有者が増加し更に管理が行き届かない可能性が高くなる。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・地域の関心や協力を集めながら、豊かな自然環境を守り続ける取組を進めるとともに、森林環境譲与税の活用方法や民有林の維持保全に関する問題を解決し、持続可能な森林保全の仕組みを構築していくべく、継続実施とする。</p> <p>・中井町には素敵な里山や河川、田園風景がたくさん存在し、年間を通じて観光資源になり得る可能性を秘めている。整備に生物保全関係の専門家などの色々な意見も反映できる仕組みがあればよりよい。</p>	

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項 目	荒廃農地等活用事業	担 当 課 名	産業振興課
		関 係 課 名	
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	荒廃農地等活用事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	荒廃・遊休農地等	手段 (どのように)	年間を通して農作物の収穫体験を実施し、中井町の農業をPRする。
	目的 (どうしたいのか)	年間を通して農作物の収穫体験を実施し、中井町の農業をPRする。		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目 標	荒廃農地の実態把握、荒廃農地別の活用計画の検討、荒廃農地別の活用計画の実施
令和3年度実績	毎年、耕作放棄地等を活用した農作物収穫体験事業を実施(新型コロナウイルス感染症の影響で規模縮小)農業の担い手不足や高齢化により、荒廃農地は増加傾向にある。
令和4年度実績	耕作放棄地等を活用した農作物収穫体験事業を実施 例年農業委員会による農地パトロールを実施し、遊休農地・荒廃農地の把握に努めている。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	C	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
事業に利用された農地は荒廃化を防いでいるが、ごく限られた面積となっている。収穫体験には毎回多くの応募があり、直接的・間接的に農業へのPR効果は高いが、荒廃農地の根本的な解決には繋がっていない。 現時点で把握している遊休農地(耕作放棄地)は約122haで、今後も増加が見込まれる。所有者には適切な農地の管理をお願いしたい。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
耕作放棄地の増加速度は増しており、耕作者の確保が課題である。JAや農業アカデミーと連携して新規就農者等の受け入れを促進しているが、それ以上に担い手不足や高齢化による影響が大きく荒廃農地の解消は難しい状況である。 令和7年度に将来の農地利用の姿を明確化する地域計画(旧人・農地プラン)の策定をする。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>B - 2</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ - 1 拡充すべき事業である ├ - 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ - 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・農作物収穫体験事業に利用された農地は荒廃化が防がれているとのことなので、収穫体験事業を企業等などが取り組めないか検討してもよい。</p> <p>・JAや農業アカデミーとの連携に加えて、新規就農者の受け入れを促進するなど、事業手法の見直しと改善が必要であり、担い手を確保し持続可能な農地利用の実現を目指す。</p> <p>・地域の協力と支援を受けながら農業の魅力を発信する。また、畑の利用には様々な縛りがありますが、耕作ではなく「継続する事業」等ができないかを検討する。</p>

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項 目	河川清掃実施範囲	担 当 課 名	まち整備課
		関 係 課 名	環境上下水道課
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	水辺保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して地域の河川環境の保全に取り組むことによって、町の貴重な財産である水環境を保全し、町民が親しむことのできる清潔な環境を維持することを目的とする		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目 標	1年あたりの清掃を行った河川延長を現状と同等以上とする
令和3年度実績	中村川及び藤沢川に接する自治会等の6団体が12,920㎡を年2回草刈り(清掃活動)を実施した。河川管理者より請負代金が支払われる。
令和4年度実績	中村川及び藤沢川に接する自治会等の5団体が11,720㎡を年2回草刈り(清掃活動)を実施した。河川管理者より請負代金が支払われる。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
河川管理者は必要最低限の草刈りとする方針。当事業が河川的美観を保つ一役を担っている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
団体構成員の減少、高齢化が進んでいる。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・地域全体での協力や啓発活動を強化し、清潔な水辺環境を維持し、町民の健康と地域の魅力を高める。</p> <p>・町内一斉清掃参加人数(事業No.4-3)と関連するが、共通の問題が人員不足である以上効果的な対策はないと思われるが、ボランティアを募り、新たなメンバーの参加を促進し、若者や地域の学生等幅広い世代の参加を呼びかけるなどを行い、継続実施とする。</p>	

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項目	生活排水処理率	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事業名	生活排水処理率向上事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	みなし浄化槽(単独処理浄化槽)等	手段 (どのように)	広報啓発や戸別訪問により下水道区域は下水道に接続、補助事業を有効活用し浄化槽区域は合併処理浄化槽に転換
	目的 (どうしたいのか)	トイレ以外はたれ流しのみなし浄化槽等を無くし、下水道接続+合併処理浄化槽を100%にして、快適な生活環境への改善と公共用水域の水質保全を図る。		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	100%(2026年度)
令和3年度実績	転換補助3件、全て7人槽。 下水接続率、2,004戸/2,534戸=79.1%、0.9ポイント上昇 浄化槽区域の合併処理浄化槽、278戸/770戸=36.1%、0.7ポイント上昇
令和4年度実績	転換補助3件、5人槽1件汲取り転換、7人槽2件。 下水接続率、2,035戸/2,555戸=79.6%、0.5ポイント上昇 浄化槽区域の合併処理浄化槽、284戸/771戸=36.8%、0.7ポイント上昇

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
少しづつではあるが、下水接続、合併処理浄化槽への転換は進んでいる。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
令和5年4月より合併処理浄化槽への転換の補助金をさらに増額した。配管費を10万8千円~18万円を30万円に、単独槽の撤去費を9万円から12万円に増額し、汲取り槽の撤去費9万円を新設した(国と同水準)。5月末で既に3件の申請があった(年8基の計画)。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・下水道接続率と合併処理浄化槽への転換率の向上を図るため、広報啓発活動や戸別訪問等の情報提供、補助金制度の充実などを強化する必要がある。</p> <p>・下水道接続、合併処理浄化槽への転換を進める上で必要であるため継続実施とする。</p>

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項 目	工場排水調査件数	担 当 課 名	環境上下水道課
		関 係 課 名	
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	工場排水調査事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内事業所	手段 (どのように)	鉱油類、プラント、コーティング業、食品業の下水道に未接続の事業所について、水質汚濁防止法に基づく環境基準での排水検査を実施する
	目的 (どうしたいのか)	油・塩基系溶剤などを使用している事業所の調査を行うことにより、河川への排水の安全を確認し、良好な水環境を保全する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目 標	年3事業所以上(県との連携分を含む)
令和3年度実績	3事業所の排水について検査を実施した
令和4年度実績	3事業所の排水について検査を実施した

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
対象となる11事業所のうち、毎年3事業所で検査を実施している 事業所が原因となる水質事故は、近年発生していない(平成26・28年度に各1件発生)			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
神奈川県で実施している事業所の排水検査との連携も考えていく 対象事業所(11事業所)に対し、毎年3事業所で実施しており、1事業所当たり約4年に1度の検査となっている 事業所の自主検査など、対策強化の検討も必要となる			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ ー 1 拡充すべき事業である ├ ー 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ ー 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・神奈川県との連携を強化し、調査の効率化を図る。また、対象事業所の自主検査等、事業所自身が行うべき対策を強化し、水質汚濁防止法等に基づく環境基準での排水検査を適切に実施させるなど、良好な水環境の保全を図る。</p> <p>・水質事故が起こらないよう、必要な検査であるので継続実施とする。</p>

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項 目	町内一斉清掃参加人数	担 当 課 名	環境上下水道課
		関 係 課 名	まち整備課
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	美化活動支援事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して町の環境保全に取り組むことによって、清潔な環境を維持することを目的とする		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目 標	現状を維持する(2017年4,426人)
令和3年度実績	令和3年度は、コロナのため秋は中止とした。春やらなかった自治会は3自治会。 参加者数:1,875名 可燃:6,180kg 不燃:160kg 幹線町道に接する部分の草刈(清掃)活動を8自治会が年2回実施した 町より報奨金を支払いした。
令和4年度実績	春の参加者数が2036人、回収量 可燃物:5,860kg 不燃:200kg 幹線町道に接する部分の草刈(清掃)活動を8自治会が年2回実施した。 町より報奨金を支払いした。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
町内一斉清掃に合わせて道路の草刈りや河川の整備を行っている。 草刈作業等の実施有無を明確にするため申出書の提出を依頼している。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
団体構成員の減少、高齢化が進んでいる。 参加者数も毎年減少傾向にあり、人口や自治会加入率が減少傾向の中、一斉清掃を実施することで、町の美化に加え美化意識の向上や不法投棄されない環境づくりに繋がることから、更なる事業所や団体の活動を促すための啓発を継続する。 町と町民が主体性を持って清潔な環境維持に取り組むことが重要であり、継続した事業の実施が必要である。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p style="text-align: center;">A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・参加方法や活動内容の柔軟性を考慮し、多様な参加形態を提供することが重要であり、啓発活動の充実や新たな参加者の獲得に力を入れる必要がある。</p> <p>・住む地域により清掃内容に差があるので、住宅街、幹線道路沿い、河川沿い、若い方が多い地域、年配の方しかいない地域など、河川清掃事業との関連性も持たせて、今後検討を重ねる必要がある。</p> <p>・事業所や団体の活動を促すためには効果的な事業であるため継続実施とする。</p>

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項目	環境展等開催数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事業名	環境展等実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	環境に関して学び、考える機会を提供する
	目的 (どうしたいのか)	環境への意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	年2回以上
令和3年度実績	環境展は、行うことができなかったが広報で食ロスをテーマとし周知を行った。
令和4年度実績	6月の環境月間に合わせ、農村環境改善センター及び井ノ口公民館にて環境展を開催し、ポスターの展示・食ロスレシピの配布を行った。また、美・緑なかいフェスティバルについては、コロナ影響により規模を縮小しての開催となり、環境ブース等の設置ができなかった。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	C	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
環境展や美・緑なかいフェスティバルについては、規模を縮小しての開催となった。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
令和5年度以降については、コロナ以前の状況に戻りつつあり、各種イベントについても制限なしで行われることから、啓発活動を積極的に実施し、町民と一体となり、環境保全及び地域温暖化防止等、環境意識の向上に取り組んでいきたいと考える。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・環境展やイベントの規模縮小による制約を乗り越え、より広範な参加者に対して環境に関する学びの機会を提供するために、啓発活動を強化する必要がある。啓発活動の再開に期待する意味で継続実施とする。</p> <p>・普段の地道なPR活動が必要であるが、今後は、他の事業計画と融合することも検討する。</p>	

令和 4 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和 5年 6月23日
二次評価 令和 5年 7月25日

項目	自然観察会開催数	担当課名	生涯学習課
		関係課名	
環境像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事業名	自然観察会実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	自然観察会を実施する。
	目的 (どうしたいのか)	里山や水辺を中心とした動植物の生態系などを町民等に知っていただき、町の自然環境の保全等に積極的に取り組んでいただく。 特に子供達に対しては、自然の中で動植物と触れ合う機会を提供するとともに、町の特徴の一つである自然の豊かさや素晴らしさを伝え、将来の環境教育の担い手となるような人材育成を図る。		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	年5回以上(関係団体等との連携強化)
令和3年度実績	新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年度に続き令和3年度も全ての事業を中止とした。 【令和元年度】・町子ども会主催(町から活動費補助金10万円を交付)による生物多様性ハイク(66名参加)や巖島湿生公園自然体験活動(年2回:夏24名参加、春41名参加)の実施など、親子等がふれあう場(観察、体験)を提供し、延べ131名(R1年度は199名)が参加し自然と触れ合った。
令和4年度実績	新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度、3年度に続き令和4年度も全ての事業を中止とした。 【令和元年度】・町子ども会主催(町から活動費補助金10万円を交付)による生物多様性ハイク(66名参加)や巖島湿生公園自然体験活動(年2回:夏24名参加、春41名参加)の実施など、親子等がふれあう場(観察、体験)を提供し、延べ131名(R1年度は199名)が参加し自然と触れ合った。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	D	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
新型コロナウイルス感染症の影響により全ての事業が中止となってしまったが、生物多様性ハイクについては、子ども会役員により観察場所を検討するなど多くの町民(子どもたち)にとって新たな発見の機会、貴重な体験の場となっている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
新型コロナウイルス感染症の影響により近年実施できていないが、コロナ収束後は実施していきたいと考えている。令和5年度より子ども会育成指導者連絡協議会の組織見直しが行われ、規模を縮小し、子ども育成連絡会として運用を開始したことから、新体制で実施可能な事業内容の検討も必要であると考えている。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・自然観察会を通じて子どもたちの環境への関心を高めるために、子ども向けのプログラムやアクティビティを充実させ、令和5年度以降は自然観察会の再開を目指す。</p> <p>・実施方法等の再考が求められているが、子どもたちが自然と触れ合い、環境について学ぶ機会の提供や、将来の環境教育の担い手を育成し、自然環境保全の重要性を認識してもらうためにも継続実施とする。</p>